

【生徒の意見、提案など】	生徒からの質問	【市長の考えなど】	担当課
<p>【地域が明るく元気なまちづくり】 寺津には、小さなお店ですが地元の人に愛されている店があります。しかし、最近、西尾駅前や郊外の大型商業施設に人が集まるようになってしまい、地元のお店や商店街の活気が薄れ、地域の人たちが交流する場所がないように感じます。以前のように、地域に密着した商店街として、多くの人々が行き交い、そこで暮らす住民同士の「交流の場」として、活気を取り戻して欲しいと思っています。また、商店街に面した道路は歩道も狭く、電柱が通行の妨げとなります。車の交通量もとても多く、子どもやお年寄りも危険です。日ごろ、登校する時などに感じる事は、寺津地内は歩道が狭く、危険な場所が多いということです。子どもからお年寄りまでが安全に暮らせるまちになって欲しいと思います。</p> <p>【提案 1】 市の広報紙を活用し、例えば、特色ある店舗や商店街を校区毎に取り上げ、定期的に紹介してはどうでしょうか。観光マップ等を見ると、もちろん、観光客のために、美味しいお店やお土産店などを掲載し、訪れた人たちに満足して帰って欲しいという気持ちが表れています。そこで暮らす人たちにとっても、地域密着型のお店の情報提供は、とてもありがたいことだと思います。広報紙で紹介することで、他の地域に住む人たちにも広く情報を発信できます。かつて賑わいを見せていた地域の商店街をクローズアップして取り上げることで、商店街消滅の危機など問題意識を感じてもらい動機づけにもなります。懐かしさやレトロな雰囲気を感じてもらえば、一度行ってみようと思う人も増えると思います。</p> <p>【提案 2】 商店街の空き店舗を使って、地元の人が集まり、井戸端会議ができる場所を作ってはどうでしょうか。もちろん、その空間は、商店街の皆さんも自由に活用できる地域の人たちの「ふれあいスペース」です。商店街の中にあることで、買い物しながら気軽に立ち寄ることができ、世間話や休憩したりと、地元の人々が自然と集まり交流が増えていくと思います。商店街の方による「商品づくり体験」などの企画できれば、外から来たお客様を楽しませることもでき、子どもからお年寄りまで、幅広い年齢層の人たちが集まる場所になると思います。</p>	<p>【質問 1】 商店街の衰退は、店を営んでいる人の高齢化や後継者不足、大型店の進出などが課題となっています。そのため、長期的な視点で活性化に向けた計画を作り、まちづくりをしなければいけないと考えます。市内において、地域の商店街を再生するような取組事例があれば教えてください。また、今後、広報にしておで、ある地域にスポットを当て、地元で愛されている店舗やそのまちの雰囲気などを取り上げる企画をし、市内外の人たちにその魅力を伝えていくことはできますか。</p> <p>【質問 2】 まちの活性化を図るためには、僕たちのような若い人たちも含め、地域の人たちが「再生させるぞ」という強い気持ちや活動が必要だと思います。子どもやお年寄りなど誰もが安心して暮らすためには、バスなどの公共交通と自動車交通が調和した交通体系の整備や交通量の多い道路では歩道の整備などが必要だと思います。西尾市には、公共交通に関する計画や道路等の整備に関する計画がありますか。あれば、その内容を教えてください。</p>	<p>【市長】 商業施設などができると地元商店街に大きな影響がおよぶという話ですが、利用者目線で考えると、大型店舗は半日程度過ごすことができ、楽しい場所というイメージだと思います。しかし、皆さんは、店舗ができる事で地元商店街に影響があるのではという部分に目を向けてくれたことが素晴らしいと思います。商店街については、商店街の人たちが独自に行っているイベントがあります。歴史公園近くの本町商店街では、月に1回「城下町マーケット」というイベントを自分たちで企画し、集客のためのPRを行い、自分たちの店を知ってもらうことを主に開催しています。また、西尾商工会議所では、「まちのふれあい教室」というイベントを行っています。ショッピングセンターと商店街を比較した時、大型ショッピングセンターの方が値段が安いと思います。大型ショッピングセンターにはない魅力を商店街が出していこうと考えた時には、やはりコミュニケーションやふれあいの部分で、店や人を知ってもらう事が大切だと思います。ショッピングセンターより少し値段は高いが、商品のことをよく知っている、良いものを作っているからという信頼関係が大切です。例えば、布屋ならば、布の染め体験を行ってみたり、パン屋ならばパン教室を行うなど、お店の方が先生となりお客さん拡大のためのイベントなども行っています。</p> <p>【市長】 空き店舗の活用としては、空き店舗に関する補助金制度があります。行政が「商店街を活性化していきましょう」と前に出すぎて旗を振っても、上手くいかないものです。担い手不足などで商売を辞めたいと思っている人が、店舗を貸してもよいが、どこの人か全く知らない人に店舗を貸すことは心配だから、貸したくないという人もいます。このような問題を解決するため、平成30年12月に、貸したい人と借りたい人の間を取り持つため、本町を中心として「まちづくり会社」ができました。この「まちづくり会社」は、地元の人たちが出資して作った会社で、貸したいと思っている人の物件を改修するなど施し、誰か借りてくれませんかという形で呼びかけを始めたところです。</p>	<p>秘書課 商工観光課 土木課</p>

【生徒の意見、提案など】	生徒からの質問	【市長の考えなど】	担当課
<p>【提案3】 商店街に面した道路の電柱の地中化です。電柱がなくなるだけで、景観を良くし、歩道もしっかり確保でき、子どもやお年寄りも安心して商店街を歩くことができます。また、高齢者の皆さんにとっては、馴染みのある商店街が歩きやすい場所となれば、健康維持の点からちょっとした散歩にもつながり、商店街を歩く人も増えると思います。何より、子どもからお年寄りまで、誰もが安全に暮らせるまちになります。また、電柱の地中化は、災害対策にもなると思います。災害時における避難経路の確保や緊急車両の通行にも困らなくなったりすると思います。</p> <p>地域の人たちだけでは、どうにもならない事もあります。特に、商店街を再生させるためには、後継者もない場合もあるので、僕たちのような中学生や高校生、また大学生など若い人たちにも手伝ってほしいと思います。商店街が再生すれば、地域に活力が戻り、防災・防犯面からも安全で安心して暮らせます。また、西尾市に転入する人や他の地域から寺津地区へ転居してくる人にとっても、住みよいまちになるはずです。子どもからお年寄りまで、幅広い年代の人たちが、日頃から交流できる場所があれば、顔の見える関係が生まれ、温かみのあるまちになり、今以上に西尾、地元が好きになる人が増えると思います。</p>		<p>【市長】 広報にしおは、皆さん読みますか。（生徒：読まない）市役所が作っているの硬い内容となっていますが、2020年度から正式にリニューアルしようと考えています。その中では、地域に愛されている商店街に取材に行き、その店の人を取り上げることなどは十分やっていくことができると思っています。公共交通については、今、見直しを行っているところで、今後、高齢化が進むと、目が悪くなってしまったなどの理由で免許を返す人がいます。市内で車に乗れないと不便であることは、皆さんもわかると思います。そうなった時に、やはり公共交通は必要です。くるりんバスや名鉄東部交通バスがありますが、今より利用しやすいように見直しを図っています。今年度末ぐらいまでに案を作り、来年度にかけて、小学校区や中学校区で説明会を行い、地元の皆さんの意見をお聴きし、最終的な計画を作っていきたいと考えています。</p> <p>いこまいかーは、皆さん知っていますか。（生徒：知らない）自宅から目的地までダイレクトに行ける乗り合いタクシーです。この部分はバスでカバーし、この部分は乗り合いタクシーでカバーするというのも見直しを行っている最中です。もう少し待ってください。電柱の地中化については、計画的に行っていますが、とてもお金がかかる話しです。</p> <p>【建設部次長】 提案の通り、地中化のメリットはたくさんあります。デメリットは、お金がかかることです。電線を道路の中に埋め込むための工事はとても長い時間が必要です。工事をする場合、今ある電柱と電線を生かしながら、地中に埋めるスペースを確保し工事します。そうすると、歩道の中にそのスペースを作る必要があります。提案の場所は、国道247号線で、確かに十分な歩道のスペースはありません。工事を行うためには、歩道を作るための用地を確保しなければなりません。当該場所は、道路いっぱい建物建っているの、住んでいる方々の協力を得ることが難しいと思います。また、歩道スペースを確保するには、現在建っている建物を移動させるため、土地を売っていただかなければいけません。住んでいる方の了承を得る必要があるの、時間がかかるという事です。</p>	<p>秘書課 商工観光課 土木課</p>

【生徒の意見、提案など】	生徒からの質問	【市長の考えなど】	担当課
		<p>【建設部次長】 現在、市で地中化を行っている場所は市役所の周辺です。西尾駅の東西や中央通り、本町通りなどは工事が終了しています。現在工事を行っている場所は、市役所北側のケンタッキーから駅の北側の交差点付近で、県が工事を行っています。市としてもそれに同調する形で、市役所と現在建設している警察署の間の道路180メートルを行っています。愛知県のこの先の計画は、ケンタッキーから郵便局までの道路で、市は、郵便局から市役所南側のところまでが現在計画しているところです。歩道が狭く危険な箇所は、電柱を民地に入れさせてもらえるように市としては地主にお願いしています。電柱を民地に入れさせていただくということは、その家の方の了承を得なければ電柱を動かすことができません。危険な道路（歩道）は市内にたくさんあるので、市民の皆さんの要望を受け、順番に工事を行っていますが、了承を得られたところから工事をおこなっている状況です。</p>	秘書課 商工観光課 土木課